

# 背伸びと自己啓発

大阪大学大学院工学研究科  
高度人材育成センター 助教  
機械工学専攻 兼任

鷲野 公彰

私は2007年に工学研究科機械工学専攻博士前期課程を修了し、イギリスのSheffield大学でPhDの学位を取得しました。その後、後述するKnowledge Transfer Partnerships (KTP) [1]というプログラムでの活動を経て、現在は大阪大学工学部で助教として働いています。所属は高度人材育成センターとなっていますが、主には兼任の機械工学専攻の仕事をしています。

私の研究は、主に粉体や流体の混在する流れ場（混相流）の数値計算を対象としています。その始まりは私の前期課程在籍時まで遡ります。大学での数値計算と聞くと、難解なプログラムコードを自作する、というイメージを持たれる方も多いと思います。私の学生時代もその例に漏れず、当時の研究室で長年使用していたコードを譲り受け、それを改良して研究を行いました。しかし、そのコードは数千行をはるかに超えるものであり、初めて見た時はその長さに圧倒されたのを覚えています。当時の私は学部の授業で習った程度のプログラミングの知識しか持ちあわせておらず、コードに一通り目を通すだけでも永遠に終わらない作業のように感じました。それでも、指導教員の助けも借りながら徐々に知識を積み上げていき、前期課程修了時にはなんとか自分のやりたいことが出来るようになっていました。このときに学んだ一番大きなことは、一見出来そうにないことでも、多少の背伸びをして努力すれば達成することができる、ということです。

前期課程修了後はSheffield大学のPhD課程に進学しました。海外の大学を選んだのは、グローバルに活躍できる人間になりたい、またそのためにテクニカルな英語を学びたい、という気持ちからでした。しかし、始めのうちは簡単な言葉のやりとりも満足に出来ず、果たしてここでPhDとしてやっていけるのだろうかと不安にもなりました。そんな時に支えとなったのが、

前期課程での経験や考え方でした。今は背伸びをしているが、それによってより高みに行けるようになる、と自分に言い聞かせることで、モチベーションを保つことができました。その結果、徐々に指導教員や他の学生からの信頼を受けるようになったと感じ始め、議論を通じてコミュニケーションもスムーズに取れるようになっていきました。やはり自分の考え方は間違っていなかったという自信を得るとともに、自分の成長を感じることでできる期間となりました。

PhD取得後はKTPに約2年間参加しました。KTPは、イギリスの大学に潜在する知識を企業に還元することを目的としたプログラムで、私はSheffield大学とProcter & Gambleの間で働いていました。このプログラムは学術的、技術的な知識の還元に加えて、人材育成や自己啓発にも力を入れていることで有名で、それが参加の一番の決め手となりました。この期間中に時間管理、意思決定、リスク管理やコミュニケーション等の基礎を学ぶことができました。これらは効率的に仕事をする上では非常に重要なスキルですが、工学部の学生としてはこれまであまり馴染みのないものばかりで、非常に有意義な時間となりました。

KTP終了後は大阪大学工学部に助教として戻り、あっという間に1年が経ちました。これからも、今の自分に足りない能力や知識を認識し、「背伸び」をすることでさらなる自己啓発を目指していくつもりです。また、大学の教員として、これまでの自分の経験を少しでも多くの学生に伝えていきたいと思っています。

[1] <http://www.ktponline.org.uk/>

(機械 平成17年卒 19年前期)